

科 目 名	公害防止管理者ⅡA			担 当 教 員	加 和 朗	常 勤 ・ 非	常 勤	実 務 経 験	有
対 象 学 年	2 年	対 象 学 科	環境情報システム学科 環境情報オフィス学科	コ ー ス	情報プロフェッショナルコース 環境マネジメントコース オフィスビジネスコース	履 修 時 間	60	授 業 方 法	講 義
実 務 経 験	製糖工場 工場長 公害防止統括者 公害防止主任管理者								
学修内容	1年次より引き続き公害防止管理者資格取得に向けた講義(汚水処理特論)								
到達目標	公害防止管理者水質4種資格取得、科目合格								
授業の方法	主として、テキストを使った講義(読み合わせ及びポイント説明)。過去問題や教員の作成した模擬テスト。								
成績の評価 と基準	期末の筆記試験、資格取得の可否、出席状況を総合的に判断（筆記試験：60%・国家試験合否：20%・出席：20%）して評価する。								
授業計画	加（汚水処理特論） 1.生物処理法 2.汚水等処理装置の維持管理 3.過去問題演習								
使用教材等	新・公害防止の技術と法規 汚水処理特論 (一社)産業環境管理協会								
履修上の 留意点・他	特になし								

科 目 名	公害防止管理者ⅡB			担 当 教 員	加 和 朗	常 勤 ・ 非	常 勤	実 務 経 験	有
対 象 学 年	2 年	対 象 学 科	環境情報システム学科 環境情報オフィス学科	コ ー ス	情報プロフェッショナルコース 環境マネジメントコース オフィスビジネスコース	履 修 時 間	30	授 業 方 法	講義
実 務 経 験	製糖工場 工場長 公害防止統括者 公害防止主任管理者								
学修内容	1年次より引き続き公害防止管理者資格取得に向けた講義(公害総論)								
到達目標	公害防止管理者水質4種資格取得、科目合格								
授業の方法	主として、テキストを使った講義(読み合わせ及びポイント説明)。過去問題や教員の作成した模擬テスト。								
成績の評価と基準	期末の筆記試験、資格取得の可否、出席状況を総合的に判断(筆記試験：60%・国家試験合否：20%・出席：20%)して評価する。								
授業計画	(公害総論) 1. 環境問題の概要 2. 環境基本法と環境関連法 3. 環境基本法の解説 4. 特定工場における公害防止組織の整備に関する法律の解説 5. 最近の環境問題 6. 各種環境管理手法に関すること 7. 国際協力 8. 法規編(環境基本法) 9. 法規編(環境基準) 10. 法規編(特定工場における公害組織の整備に関する法律) 11. 過去問題演習 12. 過去問題演習 ： 15. 過去問題演習								
使用教材等	新・公害防止の技術と法規 公害総論・水質概論 (一社)産業環境管理協会								
履修上の留意点・他	特になし								

科 目 名	公害防止管理者ⅡC			担 当 教 員	加 和 朗	常 勤 ・ 非	常 勤	実 務 経 験	有
対 象 学 年	2 年	対 象 学 科	環境情報システム学科 環境情報オフィス学科	コ ー ス	情報プロフェッショナルコース 環境マネジメントコース オフィスビジネスコース	履 修 時 間	30	授 業 方 法	講義
実 務 経 験	製糖工場 工場長 公害防止統括者 公害防止主任管理者								
学修内容	1年次より引き続き公害防止管理者資格取得に向けた講義(水質概論)								
到達目標	公害防止管理者水質4種資格取得、科目合格								
授業の方法	主として、テキストを使った講義(読み合わせ及びポイント説明)。過去問題や教員の作成した模擬テスト。								
成績の評価 と基準	期末の筆記試験、資格取得の可否、出席状況を総合的に判断（筆記試験：60％・国家試験合否：20％・出席：20％)して評価する。								
授業計画	(水質概論) 1. 水質汚濁防止対策のための法規制の仕組み 2. 水質汚濁防止法の解説 3. 水質汚濁の現状 4. 水質汚濁の影響 5. 国又は地方公共団体の水質汚濁防止対策 6. 法規編 7. 過去問題演習								
使用教材等	新・公害防止の技術と法規 公害総論・水質概論 (一社)産業環境管理協会								
履修上の 留意点・他	特になし								

科 目 名	労働安全衛生 II			担 当 教 員	加 和 朗	常 勤 ・ 非	常 勤	実 務 経 験	有
対 象 学 年	2年	対 象 学 科	環境情報システム学科 環境情報オフィス学科	コ ー ス	情報プロフェッショナルコース 環境マネジメントコース オフィスビジネスコース	履 修 時 間	60	授 業 方 法	講 義
実 務 経 験	製糖工場 工場長 公害防止統括者 公害防止主任管理者								
学修内容	各種作業主任者の技能講習で行われる作業環境の改善方法に関する知識と保護具に関する知識・技能を取得し、労働災害の防止に役立てるようにする。								
到達目標	各種作業主任者の技能講習で行われる終了試験に合格することを目指す。								
授業の方法	各種作業主任者で使用されるテキストを使用し、作業環境の改善方法に関する知識と保護具に関する知識を取得する。								
成績の評価 と基準	課題進捗状況、出席状況等を総合的に判断し評価する。								
授業計画	1.有機溶剤の作業環境の改善方法 2.有機溶剤の労働衛生保護具 3.石綿の作業環境の改善方法 4.石綿の労働衛生保護具 5.鉛の作業環境の改善方法 6.鉛の労働衛生保護具 7.作業環境測定について								
使用教材等	有機溶剤作業主任者テキスト 中央労働災害防止協会 石綿作業主任者テキスト 中央労働災害防止協会 鉛作業主任者テキスト 中央労働災害防止協会								
履修上の 留意点・他	特になし。								

科目名	公害防止管理者Ⅲ			担当教員	加 和朗	常勤・非	常勤	実務経験	有
対象学年	2 年	対象学科	環境情報システム学科 環境情報オフィス学科	コース	環境マネジメントコース	履修時間	180	授業方法	講義
実務経験	製糖工場 工場長 公害防止統括者 公害防止主任管理者								
学修内容	公害防止管理者国家試験異に向け、公害総論・水質概論・汚水処理特論のまとめ								
到達目標	公害防止管理者水質第4種資格取得								
授業の方法	主として、テキストを使った講義。今までの小テスト(過去問題等)の正解や不正解に基づき各ポイントを集中的に講義。計算問題について集中講義								
成績の評価と基準	期末の筆記試験、資格取得の可否、出席状況を総合的に判断（筆記試験：80％・出席：20％）して評価する。								
授業計画	(公害総論) 1. 環境問題の概要 2. 環境基本法と環境関連法 3. 環境基本法の解説 4. 特定工場における公害防止組織の整備に関する法律 5. 最近の環境問題 6. 各種環境管理手法に関すること 7. 国際協力 8. 法規編(環境基本法) 9. 法規編(環境基準) 10. 法規編(特定工場における公害組織の整備に関する法律) 11. 過去問題演習 12. 過去問題演習 : 15. 過去問題演習			(水質概論) Ⅱ.1 水質汚濁防止法のための法規制の仕組み Ⅱ.2 水質汚濁防止法の解説 Ⅱ.3 水質汚濁の現状 Ⅱ.4 水質汚濁と発生源 Ⅱ.5 水質汚濁機構 Ⅱ.6 水質汚濁の影響 Ⅱ.7 国又は地方公共団体の水質汚濁機構 法規編 過去問題演習			(汚水処理特論) 1. 汚水等処理計画 2. 物理化学処理法 3. 生物処理法 4. 汚水処理装置の維持管理 5. 水質汚濁物質の測定技術 6. 計測機器 過去問題演習		
使用教材等	新・公害防止の技術と法規(公害総論、水質概論、汚水処理特論) (一社)産業環境管理協会								
履修上の留意点・他	特になし								

科 目 名	卒業研究			担 当 教 員	加 和 朗	常 勤 ・ 非	常 勤	実 務 経 験	有
対 象 学 年	2 年	対 象 学 科	環境情報システム学科 環境情報オフィス学科	コ ー ス	情報プロフェッショナルコース 環境マネジメントコース オフィスビジネスコース	履 修 時 間	120		
実 務 経 験	製糖工場 工場長 公害防止統括者 公害防止主任管理者								
学修内容	2年生各自がテーマを決め、テーマに基づいて論文を作成し、発表する。								
到達目標	卒業前の発表会								
授業の方法	各自、テーマに基づいて、文献やインターネット等を活用し、論文をまとめていく。各テーマについて、論文の作成状況を確認し、また、指導や助言を行う。								
成績の評価 と基準	期末の筆記試験、資格取得の可否、出席状況を総合的に判断（筆記試験：80％・出席：20％）して評価する。								
授業計画	1. テーマの選定 2. テーマを選択した理由 3. テーマの概要を調査 4. まとめ 5. 提出 6. 説明用試料の作成8（パワーポインター） 7. 発表会（全教員・全学生） 8. 質疑応答								
使用教材等	各文献・新公害防止の技術と法規・eco検定公式テキスト・インターネット等								
履修上の 留意点・他	特になし								